

中観察では88個体、45.1%を発見することができた。このことから水中観察では水面上からの観察に比べ2倍程度の発見率があったといえる。夜間の水中観察では、95個体を発見し発見率は48.7%であった。今回の水中観察では、昼と夜の間には、発見率の差はなかった。

3. 標識試験

(1) 目的

昨年度から行っている標識試験を継続し、2年以上経過したときの標識の脱落状況を明らかにし、今後の放流で使用する標識を選定する。

(2) 方法

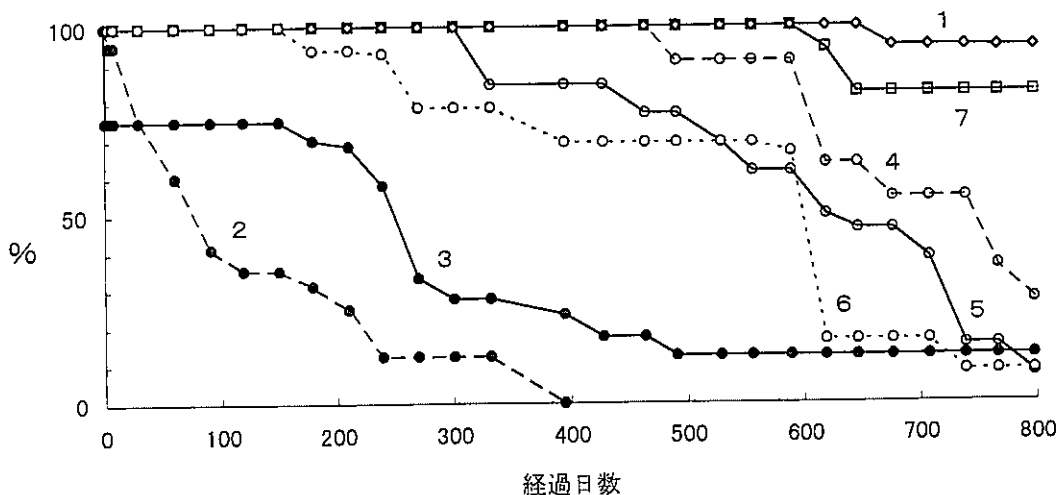
サザエ類で使用されている着色法^{1)、2)}と、ビーズを合成樹脂等で包埋するビーズ包埋法³⁾について試験した。着色法は殻頂部を着色する方法で、着色剤として色素の入ったシアノアクリレート系接着剤(商品名:アロンアルファ)とスチレン系合成樹脂(FRP用樹脂、商品名:ポリライト)に塗料を混合したものをを用いた。ビーズ包埋法では、ビーズをエポキシ系接着剤、粘性の高いシアノアクリレート系接着剤(アロンアルファ・ゼリー状)あるいはポリライトで頂部に包埋した。ビーズは、高さ(穴のあいた方向)1.9mm、径3mmのもの(大型)と高さ1.4mm、径2.2mmのもの(小型)を用いた(表Ⅲ-4)。

(3) 結果

標識装着後798日経過して、アロンアルファ(1区)では標識残存率が94%で、ポリライト(7区)では82%と両着色法の成績が良かった。また、ビーズ包埋法では4区(アロンアルファ大ビーズ)で27%、5区(アロンアルファ小ビーズ)で8%、6区(ポリライト)で8%の標識残存率であった。エポキシ系接着剤の2、3区では標識装着直後からビーズの脱落が見られ、2区(大ビーズ)では91日後に、3区(小ビーズ)では270日後に標識残存率が50%以下となった。脱落はその後も継続してみられ、2区では395日後に全ての個体のビーズが脱落し、3区では491日後に残存率が12.5%となり実験終了時までそのままであった(図Ⅲ-10)。

表Ⅲ-4 残存試験を行った標識の概要

標識番号	1	2	3	4	5	6	7
標識方法	着色法	ビーズ包埋法		ビーズ包埋法	ビーズ包埋法	ビーズ包埋法	着色法
標識材料	シアノアクリレート系接着剤	エポキシ系接着剤		シアノアクリレート系接着剤	シアノアクリレート系接着剤	スチレン系合成樹脂	スチレン系合成樹脂
		大ビーズ	小ビーズ	大ビーズ	小ビーズ	小ビーズ	黄色塗料



図Ⅲ-10 標識の残存率の経時変化